

## 強靱な“アーマライト”生地により シングルレイヤーでも高い安全性を確保



●写真はストレートフィットだが、いずれもオーソドックスなデザインなのでバイクを降りてからはもちろん、タウンユースとしても使いやすいはず。乗降時やライディング姿勢を取っても窮屈さはない



armourlite™(アーマライト)

●パラシュートにも使われているポリアミド繊維をデニム生地に織り込むことで、70km/hでの耐摩擦試験でも破れることがない強靱さを実現したアーマライトを採用している



●腰の両サイドにCEレベル1、両膝にはCEレベル2のプロテクターを標準装備。このプロテクターは厚手だが柔軟性に富むため、装着したまま歩いても違和感を感じにくい



●強度に優れるリベット留めポケットを採用し、テンションの掛かる部位には3重ステッチも用いられる。デザイン上のアクセントでもある腰横の斜めのベルトループにも注目!

## OXFORD

価格:1万8150円 サイズ:30、32、34、36、38、40インチ  
カラー:ブラック、ストーンウォッシュ  
※36、38、40インチは取り寄せ

## アーマライトジーンズ



## One More Choice!

### アーマライトジーンズ スリムフィット レディース

価格:1万8150円  
サイズ:8、10、12、14、16  
カラー:ブラック、ストーンウォッシュ  
※14、16サイズは取り寄せ



同シリーズのもう1つのバリエーションが、レディースモデルもラインアップするスリムフィット。ややテーパード気味のシルエットとなり足が細く見えることから、女性人気が非常に高いという。もちろん生地にはアーマライトを採用し腰と膝のプロテクターも標準装備するなど、安全性能はストレートフィットと同一だ。

イギリスのバイク用品メーカー、オックスフォードが2019年にリリースした新製品がこのアーマライトジーンズ。アーマライトとはポリアミド繊維を生地に織り込むことで耐摩耗性や耐衝撃性を高めた独自素材で、補強のための裏地が必要ないのが特徴だ。この生地により、欧州の安全基準であるCE規格でAA(ダブルエー)を取得。シングルレイヤーながらライディング用の保護具として認可されているのだ。

腰と膝にはCEレベル2のプロテクターを標準装備しているが、見た目はもちろん、履き心地のよさや動きやすさはタウンユースのジーンズと変わらない。しかも価格は1万円台後半と手頃なので、普段着に近い格好でバイクに乗りたい、でも安全性は妥協したくないというライダーにピッタリの1本と言える。



ジーンズ?  
デニムパンツ?  
ジーパン?

# そもそも "デニム"って何だ?

身近に接しているが、実はよく知らないものはけっこうある。デニムが正にそう。自分に合ったライディングデニムを選ぶためにも、まずはデニムの基礎知識を身に付けよう。

デニムとは「太めの糸を使った綾織りの綿生地」のこと。生地にしてから染色するブルデニムもあるが、染色した縦糸と未染色の白い横糸を使用するのが基本だ。生地に斜めの線が見えることから斜文織りとも呼ばれる綾織りは、平織りより密度が高く厚めで、柔軟性に優れたシワになりにくい。

そんなデニムを使ったパンツが「ジーンズ」だ。ブルー・ジーンズという言葉があるようにカラーはインディゴ(藍色)が一般的で、ストーンウォッシュなどの加工を施して色を淡くしたものも多い。なお、出荷前に1度洗うことで生地に付いた糊を取り、初期の縮みを終えて使いやすくしたものはワシウォッシュ加工という。

ライダー用デニムパンツがタウンユースモデルと異なる点は、膝が曲がるライディング姿勢に合わせた立体裁断と、プロテクターを取り付けるポケットなどを装備するものが多いこと。また、デニムは厚手で丈夫と言われるがアクシデント時に地面との摩擦に耐えるのは容易ではないため、補強として高強度繊維を織り込んだものもある。多少の汚れや生地の擦れ、傷は「味」となりあまり気にならず、街を歩いても違和感がないライディングデニムは街乗りにも最適な。もちろん、ツーリング先で散策したい人やキャンプツーリングにも適したアイテムと言えるだろう。

最新 **ライディングデニム**は**シェイプ**と**安全性**で選ぶ!

## デニムパンツをもっとよく知るための 6つのキーワード

### 種類 デニムパンツとジーンズの違いは?

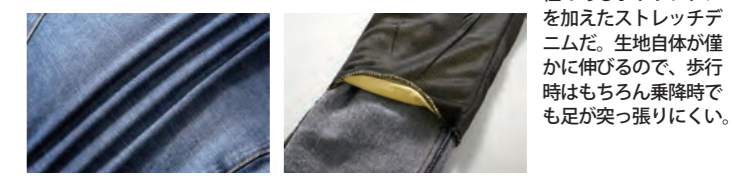
デニムパンツとは文字どおり「デニム生地を使ったパンツ」のこと。これに対しジーンズはデニムパンツの一種で、その発祥はジーンズメーカー・リーバイスの創業者、リーバイ・ストラウスが作ったアメリカの鉱山で働く労働者のための作業着。そのためデニム生地を使ったカーゴパンツなど、ジーンズ以外のデニムパンツも存在する。ちなみに和製英語である「ジーパン(Gパン)」は、「ジーン(jean)のパンツ」を呼びやすいGのパンツ→Gパンとなった説や、G.I.(アメリカ兵)が履いていたパンツという説などがあるようだ。

●ライディングデニムでは縫製処理されたものも多いが、伝統に則ったジーンズはリベット留めのポケットを備えている



### ライディングデニムに 使われる素材は? **素材**

デニムの素材は綿(コットン)が基本。ただしライディングデニムでは生地の引き裂き強度や耐摩擦性を高めるため、ケブラーなどのアラミド繊維やコーデュラナイロンを混紡したものも多い。さらに、タウンユースモデルと共に急速に普及してきているのが、伸縮性のあるポリウレタンを加えたストレッチデニムだ。生地自体が僅かに伸びるので、歩行時はもちろん乗降時でも足が突っ張りにくい。



●体の動きに合わせて伸縮するストレッチデニムは快適性が高い ●高強度繊維を織り込む他、補強ライナーを装備したのもある

### ライディングデニムの 保護性能は? **安全性**



ライディングデニムは生地の強度を高めただけでなく、膝や腰周りにプロテクターを装備するものも多い。中には欧州の安全基準であるCE規格(EN1621-1)をクリアするプロテクターを標準、またはオプション設定するパンツもある。CEプロテクターには2つのレベルがあり、レベル2をクリアしたものの方が保護性能が高い。なお、プロテクターが装着できないパンツでも、身に付けるタイプのプロテクターやパッド付きのインナーパンツなどを併用することで保護力を高められる。

### シーズン デニムは1年中使える?

綿素材のデニムは雨や冷気の侵入に弱い。そんな弱点を解消するため、防水透湿素材を採用して防水性を持たせたり、防風フィルムや裏地に起毛素材を使用して保温性を高めたものなどもリリースされている。逆に、ベンチレーション(エアインテーク)を備えて通気性を高め、夏の暑さに対応させたものもある。こうしたアイテムを選べば1年を通してライディングデニムを使うことが可能だ。



●レインウェアに使われる防水透湿素材、ゴアテックスを採用したデニムパンツもある

### 形状 デニムパンツの形状には どんな種類がある?

パンツの形状には、ストレート、テーバード、スリム、スキニーなどがある。ストレートはパンツの幅が大きく変わらず真っすぐなもの、テーバードは裾にいくにしたがって細くなっていくものだが、膝上・膝下で切り替えたものもある。一方、シルエットが一般的な幅よりも細いものがスリムやスリムフィットと呼ばれ、レディース用が中心となるがラインが分かるくらい細いものをスキニーという。余り細いものだと乗降時に足を上げにくい、ストレッチ生地を使うことで動きにくさを解消したパンツもある。



●ストレートフィット ●スリムフィット

### 藍色や紺、 青以外のカラーは? **カラー**



ジーンズの代表的なカラーがインディゴ(藍色)。現在は化学染料がほとんどだが、天然のインディゴには殺虫効果のあるピレスロイドが含まれていたためこの色が普及したと言われている。また、ブルーやネイビーを含めた青系だけでなく、ブラックをラインアップするモデルも多い。さらにカーキやホワイト、グリーンといったカラーデニムも増えているので、ジャケットやブーツ、愛車のカラーとコーディネートを楽しむこともできる。